

令和6年 JA庄内たがわトルコギキョウ 防除暦

≪作型と農薬の使用時期(例)≫

作型	時期	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月						
		中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下					
11月～12月定植 (越冬栽培)	粒 剤	A 定植時			A加温開始時															
	水和剤系						B	C	DF	E	BG	C	DH	E	CI					
2月下旬～4月上旬定植 (季咲き栽培)	粒 剤						A 定植時													
	水和剤系						B	C	D	E	BF	CG	DH	EI	CF					
4月下旬～6月上旬定植 (季咲き後半栽培)	粒 剤								A 定植時											
	水和剤系								B	C	D	EF	BG	CH	DI	EF	CG	DH		
6月下旬～7月定植	粒 剤										A 定植時									
	水和剤系										B	C	D	EF	BG	CH	DI	EF	BG	CH

※ ベンレート水和剤を使用する場合は定植前日に使用方法を守って灌注する。

≪農薬と使用方法≫ 薬剤登録:R4年12月5日現在

農薬名(記号欄のどちらか選択)	系統	毒性	主な対象病害虫	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
A	ジェイエース粒剤	有機リン	アザミウマ類・アブラムシ類	1～2g/株	発生初期	5回以内	定植時及び定植1ヶ月後に散布
	ダントツ粒剤	ネオニコチノイド	アブラムシ類 アザミウマ類	2g/株	発生初期	4回以内	定植時及び定植1ヶ月後に散布 使用回数はダントツ水和剤と合わせて4回以内
B	テルスターフロアブル	ピレスロイド	ヒラスハナアザミウマ	4,000 倍	—	3回以内	葉裏にも丁寧に散布
	オウルラン水和剤	有機リン	アブラムシ類、アザミウマ類、ヨウムシ	1,000 倍	発生初期	5回以内	
C	スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド	アブラムシ類・コナジラミ類 ハモグリハエ類	2,000 倍 1,000 倍	発生初期	5回以内	1ℓ/m ² 灌注
	アクタラ顆粒水溶剤	ネオニコチノイド	アカヒゲアザミウマ ハモグリハエ類・コナジラミ類	1,000 倍 2,000 倍	発生初期	6回以内	
D	ダントツ水溶剤	ネオニコチノイド	アブラムシ類・アザミウマ類	2,000 倍	発生初期	4回以内	使用回数はダントツ水和剤と合わせて4回以内
	コルト顆粒水和剤	ピリフルキナゾン	アブラムシ類・コナジラミ類	4,000 倍	発生初期	4回以内	
E	チェス顆粒水和剤	ピメトロジン	アブラムシ類・コナジラミ類	5,000 倍	発生初期	4回以内	
	ディアナSC	スピノシン	ハモグリハエ類、アザミウマ類、オオタバコガ	2,500～5,000 倍	発生初期	2回以内	薬害に注意
その他	プレオフロアブル	ピリダリル	オオタバコガ、ハスモンヨトウ	1,000 倍	発生初期		
	ハチハチフロアブル	ピラゾールカルボキサミド	アザミウマ類	1,000 倍	発生初期	4回以内	葉裏にも丁寧に散布、他の作物に被害が出る恐れあり飛散に注意
その他	アフーム乳剤	マクロライド	オオタバコガ、ヨウムシ類、ハモグリハエ類 アザミウマ類	1,000 倍 2,000 倍	発生初期	5回以内	
	フェニックス顆粒水和剤	ジアミド	オオタバコガ、ハスモンヨトウ	2,000 倍	発生初期	4回以内	葉裏にも丁寧に散布
その他	トレボン乳剤	ピレスロイド	ハスモンヨトウ	1,000 倍	—	6回以内	

100坪当たりの使用量		R3.3.5時点			
販売規格と当用価格					
3kg	株元散布	3kg	1,950		
2kg	株元散布	1kg	1,120		
2kg	株元散布	3kg	3,280		
		100ml	2,790		
① 草丈	② 草丈	③ 草丈	④ 草丈	250g	2,390
				500g	2,450
				100g	970
				500g	4,650
				125g	1,820
				100g	1,490
				100g	2,670
				100ml	2,320
				500ml	5,140
				100ml	2,300
250ml	5,770				
100g	2,480				
		40L	50L	100ml:980円	
20L	30L	50L	60L	250g	2,220
				250ml	1,045
		50L	60L	100g	2,450
				250g	1,225
				100g	3,440
				250ml	6,540
				250ml	6,020
				100g	1,010
				250g	615
				100g	2,090

※ローテーション防除の薬剤で効果がない場合、その他の薬剤の使用をオススメします。

※同一系統の薬剤を使用し続けると耐性虫、耐性菌の発生を助長しますのでローテーションでの使用をお願い致します。

[ちょっとメモ]

●展着剤は希釈する水道水に1番最初に入れ混用した後、農薬を入れて下さい。農薬のかけ過ぎは薬害が出やすくなりますので草丈毎の散布量には十分注意して下さい。特にディアナSCの使用は注意が必要です。

●農薬を混用する際の順番は、『展着剤 → 乳剤 → フロアブル → 水和剤』です。展着剤は必ず最初に添加して下さい。

●農薬防除だけでなく、防虫ネットの設置等、耕種的防除も取り入れましょう。